

広域基幹施設「清ヶ浜デイサービスセンター」の使われ方

—山口県阿武町における高齢者福祉施設のネットワーク構築に関する研究 その2—

正会員 ○三島 幸子\*  
 正会員 中園 真人\*\*  
 正会員 山本 幸子\*\*\*

広域基幹施設 高齢者デイサービス 使われ方

1. はじめに

本報では広域基幹施設である「清ヶ浜デイサービスセンター」を対象とした使われ方調査結果を元に、活動プログラムと活動場面の分析を行い、広域基幹施設としての使われ方の特徴を明らかにする。

調査内容は平面図の作成、活動場面記録調査である。平面図は実測調査を行い、家具配置も記録している。活動場面記録調査は、平成22年5月31日—6月5日の6日間、終日（午前9時から午後4時）5分間隔で利用者及びスタッフの施設内での行動観察を行い、行為の内容と場所を平面図に記録するとともに、写真撮影を行った。

施設の全体平面図を図1に、デイサービスセンター部分の平面図を図2に示す。

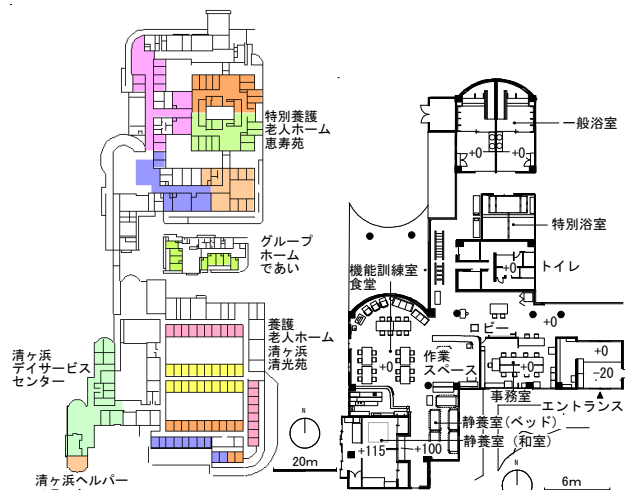


図1 施設全体平面図

図2 平面図

2. 施設の空間構成

一番広い空間である機能訓練室・食堂は机、ソファ、マッサージチェアが置かれ、利用者は1日を過ごしている場所である。隣にある作業スペースは利用者の所持品置き場、レクリエーションなどに使う備品置き場として使用されており、利用者が作ったものや、利用者が持って来た花などが飾られている。静養室は和室とベッドの2種類があり、利用者が自由に昼寝等を行える部屋である。

ロビーにはリハビリ器具などが置かれ、利用者が電気を当てたり、リハビリをしたりするスペースになっている。事務室はスタッフの控室兼事務に使用され、部屋の前にあるホワイトボードにはその日の利用者の名前とぬり絵やのんびりなどが書かれたマグネットが付いており、利用者が到着したときに自由にマグネットを付け替えることができるようになっている。

浴室は一般浴室と特別浴室の2種類あり、介護度が高く寝たきりの利用者でも入浴できるようになっている。空間が広く、機能訓練室からトイレは近いが、浴室は遠くなっている。

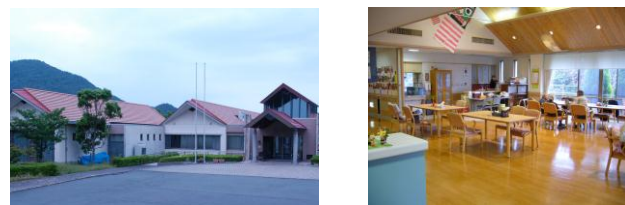


写真1 「清ヶ浜デイサービスセンター」

3. 一日の生活プログラム

調査期間6日間の一日の生活プログラムを図3に示す。一日の生活プログラムは大きく、(1)8:30~9:30: 送迎(迎え)(2)9:00~10:00: バイタルチェック・お茶(3)9:50~12:50: 入浴及び自由時間(4)12:00~12:30: 昼食(5)

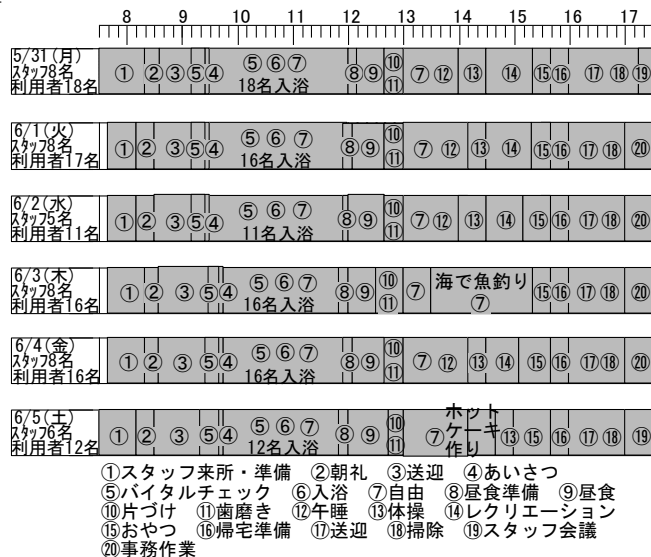


図3 プログラム

The Usage of the Regional Nucleus Facility 'KIYOGAHAMA DAY SURVICE CENTER'  
 Network Construction of Welfare Facilities for Old People in Abu Town Yamaguchi Prefecture (Part 2)

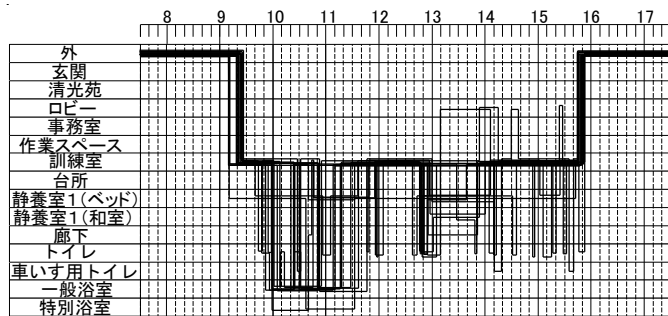


図4 利用者の居場所 (6月4日)

12:30～14:00：自由時間(6) 14:00～15:00：体操・レクリエーション(7) 15:00～15:30：おやつ(8) 16:00～：送迎(送り)に区分される。

利用者の居場所の一例を図4に示す。利用者は1日のほとんどを機能訓練室で過ごし、トイレや浴室以外の居室移動はほぼなく機能訓練室が1日の生活拠点となっている。午前中は入浴サービスが中心となっており、介護度が比較的低く自力で動ける利用者は一般浴室、介護度が高く自力で動けない利用者は特別浴室を使用している。トイレに行ってから入浴する利用者もあり、午前中は動きが多いことが分かる。また、午後から午睡のために静養室へ移動する利用者が多い。リハビリをする利用者はスタッフとロビーや廊下で歩行訓練などを行っている。

#### 4. 利用者の行動パターン

##### 1) 送迎 (迎え)、バイタルチェック

送迎時 (迎え) には1人送迎のみのスタッフを含む5, 6人のスタッフが送迎に出ている。利用者は到着した人から決められた席へ向かう。スタッフは車イスや足の悪い利用者の介助をしている。席に着く前に事務室の前にあるホワイトボードに今日利用者がする予定のマグネットを自分の名前を書かれた枠の中に貼っている人もいる。

バイタルチェックはスタッフ2人がかりで1人ずつ行われる。その間、他のスタッフはお茶の準備や入浴の準備をしている。

##### 2) 入浴、自由時間

スタッフは声掛け担当と入浴担当に分かれており、声掛け担当のスタッフは利用者に対し「お風呂に行きましょう。」と声をかけて浴室へ誘導する。入浴する前にトイレに行く利用者も数人いた。図6、図7に浴室の平面図を示す。ほとんどの利用者は一般浴室を利用し、スロープが付いているため、車いすの利用者でもコロ付きチェアを使って座ったまま入浴できるようになっている。また、介護が必要な利用者に対してはスタッフが常についている。入浴時間は利用者によって違うが、平均約40分である。車いすの利用者の入浴も同じ時間かかっているが、服の着脱などに時間がかかるため、実際に入っている時間は短い。介護度が高く寝たきりの利用者は特別浴室へ

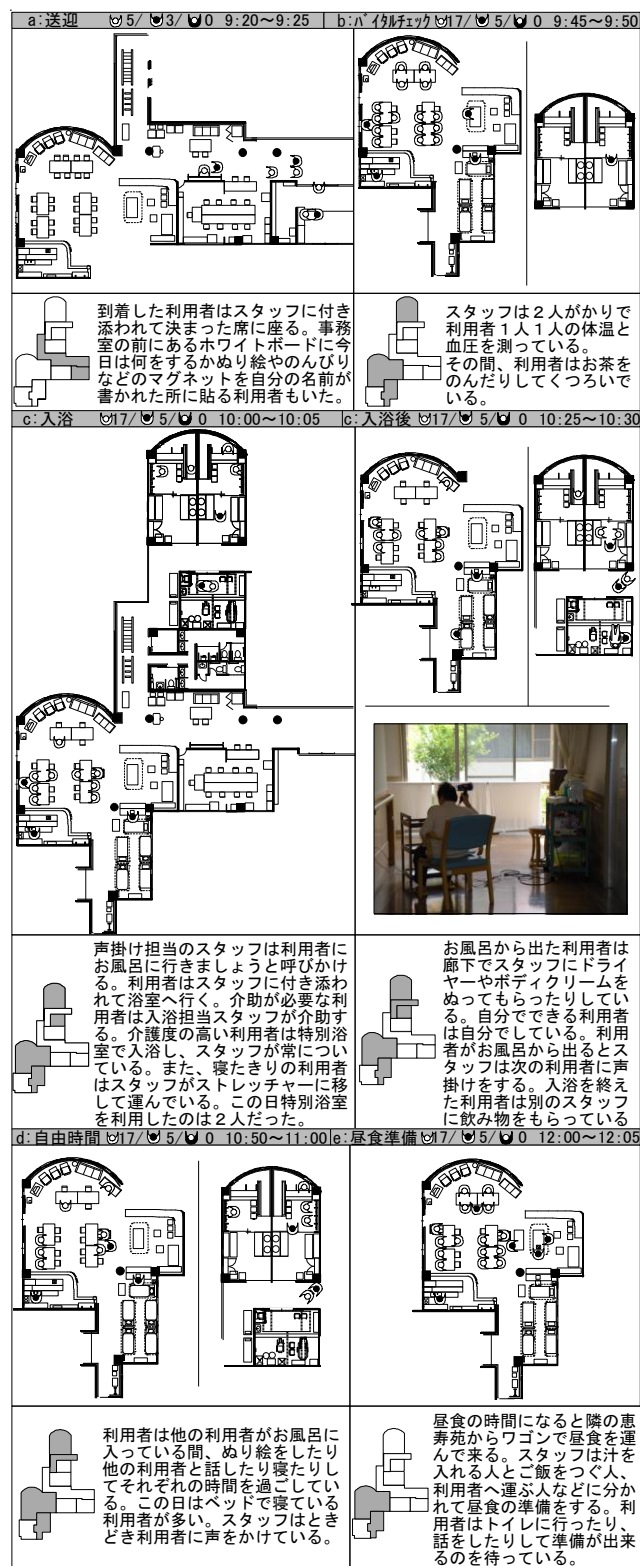


図5 利用者の居場所と行為 (午前)

誘導し、スタッフがほとんど介助している。入浴時間は約45分である。また、自力で動くことのできない利用者はスタッフがストレッチャーに乗せて特別浴室へ連れて行っている。時間は約50分かかっている。入浴が終わると、利用者は浴室前の廊下でスタッフに髪の毛を乾かしてもらったりボディクリームを塗ったりしてもらって

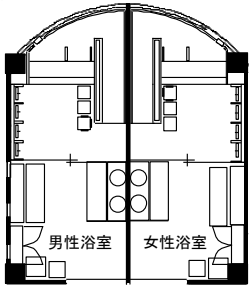


図6 一般浴室の平面図



写真2 一般浴室

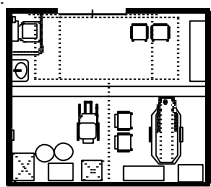


図7 特別浴室の平面図



写真3 特別浴室

たりしている。自力のできる利用者は自分でしている。入浴が終わって利用者が戻ってくると、声掛け担当のスタッフは次の利用者に声かけをして浴室へ誘導する。その間、他の利用者はぬりえをしたり、他の利用者とは話したり静養室のベッドで睡眠をとったりとそれぞれの時間を過ごしている。スタッフは入浴サービスや飲み物の準備などで動き回っている。

### 3) 昼食

昼食の時間が近づくとスタッフは昼食の準備を始める。恵寿苑の厨房で調理された昼食をワゴンで恵寿苑のスタッフが運んでくると、スタッフは汁物担当、ご飯担当、配る担当に分かれて利用者に昼食を配っている。その間利用者は準備ができるのを待ちながらくつろいでいる。昼食前にスタッフに連れられてトイレに行く利用者もいた。昼食の準備ができると利用者はそれぞれ食べ始める。スタッフも準備ができると利用者の間に座って持参のお弁当を食べ始める。

### 4) 午睡、自由時間

食べ終わった利用者は歯磨きをして寝たい人から静養室で寝始める。介助が必要な人はベッドで、必要でない人は和室でスタッフが準備した布団で寝ている。またマッサージチェアやソファに座って寝ている利用者もいた。その間、スタッフは事務室で休憩をとったりしている。

### 5) 体操、レクリエーション

体操の時間になるとスタッフは利用者呼び掛けて机とイスを移動させている。1人の担当スタッフが中心となり体操が始まる。スタッフは体操の内容が書かれた紙をめくりながら行っている。女性の利用者はほとんど参加しているが、男性の利用者は2人参加していなかった。その

<p>f: 昼食 17/5/0 12:15~12:20</p> <p>利用者は昼食の準備が出来ると合唱もなくそれぞれ食べ始める。スタッフも準備が終わると、椅子を作業スペースから持ってきて利用者の間に座って持参のお弁当を食べ始める。</p>	
<p>g: 昼食後 17/5/0 12:45~12:50 h: 自由時間 2 17/5/0 13:00~13:05</p>	
<p>i: 体操 17/5/1 14:10~14:15 j: レクリエーション 17/5/0 14:50~14:55</p> <p>利用者は食べ終わった人から歯磨きをしてマッサージチェアに座ったり、寝始めたりしている。だいたいの人が食べ終わるとスタッフの人は食器を片づけ始める。利用者の方も手伝っている姿が見られた。</p> <p>利用者で寝たい人は静養室のベッドや和室、マッサージチェアの上で寝ている。自分の席で寝てしまっている利用者もいる。</p>	
<p>i: 体操 17/5/1 14:10~14:15 j: レクリエーション 17/5/0 14:50~14:55</p> <p>スタッフは机を少し後ろに下げてといすを移動させて体操を呼びかけて1人のスタッフが中心となって体操が始まる。体操の内容が書かれた紙をめくり「足をあげましょう」と声をかけながら行っている。その間別のスタッフは特定の利用者に対してリハビリを別メニューで行っている。</p> <p>体操の席のままこの日は室内ゲートボールをしている。ホワイトボードに各利用者の点数を記入している。その間に他のスタッフがおやつ準備をしている。</p>	
<p>k: おやつ 17/5/0 15:20~15:25 l: 送迎 17/6/0 15:45~15:50</p> <p>レクリエーションが終わるとスタッフはイスと机を元の準備をする。利用者も元の席に戻り各々食べ始める。</p> <p>バスは一齐に出るので利用者は一齐にゆっくり玄関へ向かっている。外で送迎のスタッフが待機して車に乗る利用者を介助している。</p>	



図8 利用者の居場所と行為（午後）

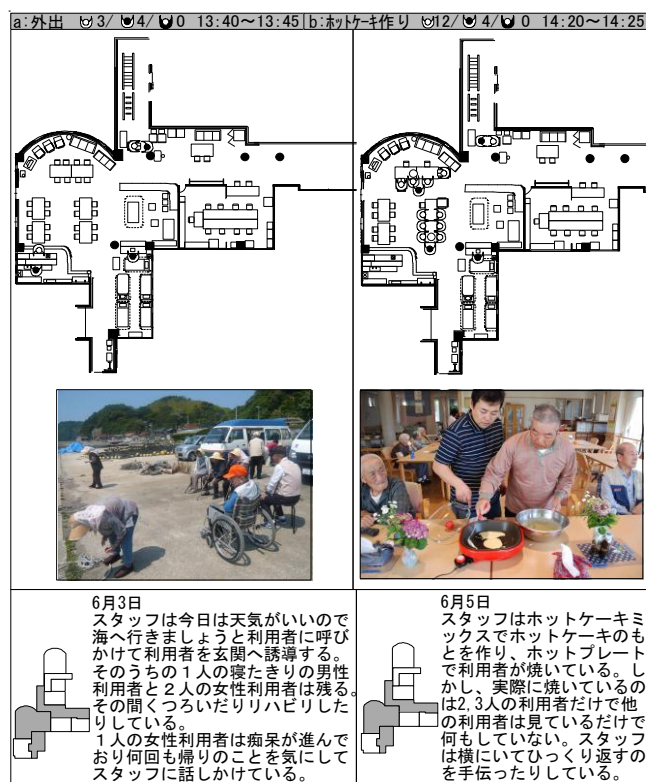


図9 非日常プログラム

間リハビリ担当のスタッフが特定の利用者に対して別メニューでリハビリを行っている。

レクリエーションでは室内グランドゴルフをしている。1人のスタッフがホワイトボードを事務室から運んできて、利用者の得点を記入している。レクリエーションにはほとんどの利用者が参加している。

#### 6) おやつ

レクリエーションが終わるとスタッフは机とイスを元に戻し利用者を元の席に誘導しておやつの準備を始める。利用者はおやつが来るとそれぞれ食べ始める。スタッフが利用者に話しかける場面も見られた。

#### 7) 送迎（送り）

時間になるとスタッフは帰りのあいさつをして利用者を玄関へ誘導する。バスは一斉に出るので、全員同時に移動し始める。大人数が一度に移動するが、通路が広いのでスムーズに移動できている。靴を自分で履くことのできない利用者は入口横のベンチに座って、スタッフに履かせてもらっている姿もあった。帰る前にトイレに行く利用者もいた。

## 5. 非日常プログラム

6月3日のように天気のいい日には外出することもある。送迎用の車を出し、利用者に強制することなく行きたい人だけで行くが、寝たきりの利用者以外の利用者はほぼ外出している。この日は海に行き、利用者は釣りをしたり貝殻を拾ったりとそれぞれ楽しんでいる。スタッフは帽子やイスを持参し、利用者が休みながら無理なく楽しめるように配慮している。

また、6月5日にはおやつ作りをしている。この日は簡単にできるホットケーキ作りで、スタッフが横につきながら、利用者はホットプレートでホットケーキを焼いている。男性の利用者のテーブルにもホットプレートを置き、男性スタッフがついて1人の男性利用者も焼いている。焼けたホットケーキは利用者が体操を行っている間にスタッフが食べやすい大きさに切り分けて、おやつ時間に出している。

## 6. まとめ

本論では広域基幹施設を対象に、施設の使われ方の特徴に関して検討した。得られた知見は以下の通りである。

- 1) スタッフは声掛け担当と入浴担当に分かれて入浴サービスを行っている。ほぼ全員の利用者が利用している。一般入浴と特別浴室があり、車いす利用者でも一般浴室を使用できるようになっている。全員利用者の中には介護度が高く自力で動くことのできない利用者もあり、スタッフがストレッチャーに乗せて連れて行っている。一般浴室の平均時間は約40分で、特別浴室の平均時間は約48分である。そのため、入浴に時間がかかり、スタッフはその間、入浴の介助や入浴を終えた利用者への飲み物の準備などで動き回っている。入浴していない利用者はお話したり、くつろいだりして過ごしている。スタッフは絶えず動き回っているため、利用者の様子をゆっくり見ることができていない点が課題である。
- 2) 席は決まっているが、機能訓練室にはソファやマッサージチェアがあり、隣の静養室にはベッドが5台置かれている。そのため利用者は自分の席だけでなく、ソファに座ったりベッドで寝たりと自分の体調に合わせているため、利用者はそれぞれ自分の好む場所にいることができる点で評価できる。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、藤山千佳子氏(阿武福祉会特別養護老人ホーム「恵寿苑」園長)、各施設職員の方々、利用者の方々には度重なる調査にご協力いただいた。末尾ながら記して謝意を表します。

\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士(工学)

\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

\*\* Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng

\*\*\* Assistant Professors, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.